

【長生村長賞】

はら わかな
原 若菜

お母さんへ

「できることなら代わってあげたい」私が聞いた中で、一番か細い声だった。

泣きそうな声だった。いや、泣いていたのかもしれない。

当時の私は、お母さんに代わってほしいと思っていたかもしれない。

でもね、私…これでよかったって、代わらなくてよかったって思ってるよ。

自分が手術をして生かされたこと、本当によかったって思ってる。

いつもハキハキ話すお母さんが、あの日のあの時だけ、あんなに切ない声で話すんだもん。びっくりして、ちょっと不安になっちゃった。

でも、それだけ私のことを大事に想ってくれてたんだよね。先天性の心臓疾患で生まれた私を、大切に育ててくれたんだよね。

お母さん。きっと…健康に産んであげられなかったって悔やんで、あの時

「できることなら代わってあげたい」って言ったんでしょ。

お母さんはすごく厳しかったけど、優しいとことか、弱いとことかあるの
知ったから…なんとなくわかる。だけど、病気だったことも手術して傷が
残ったことも全部、私にとって必要なことだったと思うの。

病気や手術の経験があるから、同じような立場の人の苦しさや辛さに
共感できる。命の大切や生きることも真剣に考えられた。生かされた命、
大事にしようって思えた。

何より、お母さんが私のこと、心から愛してくれてるって実感できた。

だからさ、今度私に何かあったとしても、代わってあげたいなんて
思わなくていいよ。大丈夫。私はお母さんからもらった大切な命精一杯
燃やして生きていくから。代わらなくても、お母さんの愛は、ちゃんと私に
伝わっているから。安心して。

普段は、照れくさくて言えないけど…私を産んでくれて、育ててくれて、
愛してくれてありがとう。

(三重県／28歳／女性／小学校非常勤講師・塾講師)

社会福祉法人愛の友協会